

平成 30 年度

那覇空港・国際通り・バスターミナルしょうがい者・こうれい者観光案内所
 沖縄バリアフリーツアーセンター運営実績報告書（トピックス版）

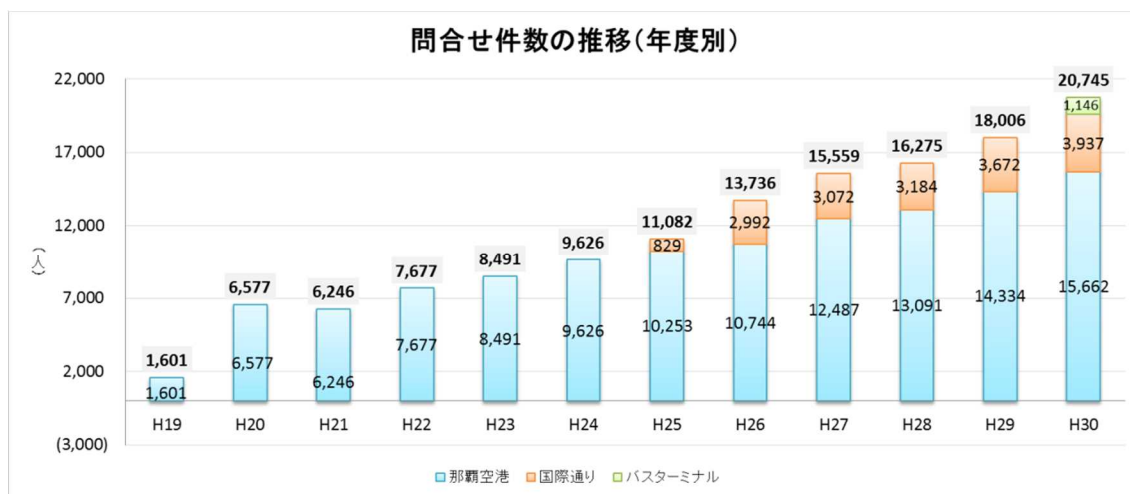
1) 右肩上がりの問い合わせ

平成 30 年度の問い合わせは、那覇空港しょうがい者・こうれい者観光案内所 沖縄バリアフリーツアーセンター（以下、那覇空港 BFTC と略す）、那覇 国際通りしょうがい者・こうれい者観光案内所 沖縄バリアフリーセンター（以下、国際通り BFTC と略す）那覇バスターミナルしょうがい者・こうれい者観光案内所（以下、バスターミナル BFTC と略す）の 3 か所のセンター合わせて 20,745 件であった。

沖縄県全体の観光入域者数の増加に伴い、当法人の観光案内所への問い合わせ件数も 9 年連続で前年度を大きく上回る伸びを見せ、好調だった前年度の 18,006 件を超えて前年度比 15.2%増となった。バスターミナル BFTC においては設立 1 年目ではあるが 1,146 件の問い合わせがあった。

問い合わせ件数の推移(年度別)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	総計
那覇空港	1,601	6,577	6,246	7,677	8,491	9,626	10,253	10,744	12,487	13,091	14,334	15,662	116,789
国際通り							829	2,992	3,072	3,184	3,672	3,937	17,686
バスターミナル												1,146	1,146
合計	1,601	6,577	6,246	7,677	8,491	9,626	11,082	13,736	15,559	16,275	18,006	20,745	135,621

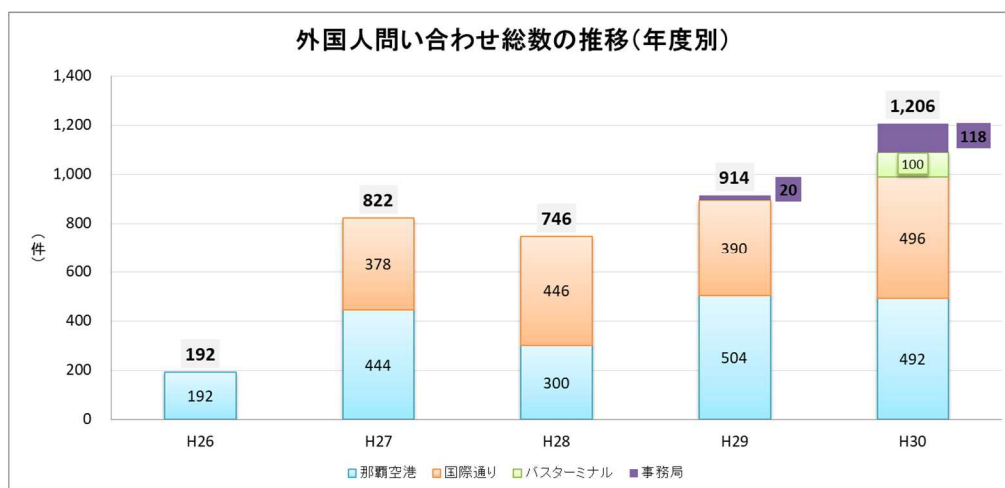


2) 外国人観光客の利用増加

平成 30 年度の外国人観光客からの問合せは、1,206 件であった。外国人観光客からの問合せは、国際通り BFTC での対応が多くみられる、同センターが外国人観光客の多いドンキホーテ 5 F に位置することが大きな要因である。また、平成 30 年 10 月に開所したバスターミナル BFTC でも多くの問い合わせがあった。加えて、事務局でもメール等の対応で 118 件もの対応をおこなった。問い合わせおよび車いす貸出が伸びるなかで、外国人へのベビーカーの貸出総台数は 65 台、総貸出泊数は 136 日に留まり前年度より減少した。

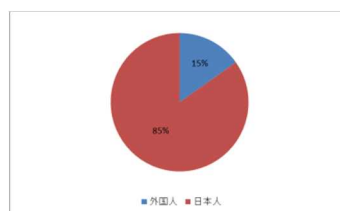
外国人問い合わせ総数の推移(年度別)

	H26	H27	H28	H29	H30	総計
那覇空港	192	444	300	504	492	1,932
国際通り		378	446	390	496	1,710
バスターミナル					100	100
事務局				20	118	138
合計	192	822	746	914	1,206	3,880



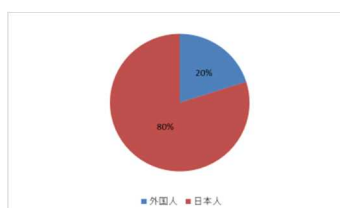
外国人への車いす貸出台数とその割合

外国人	129	15%
日本人	719	85%
合計	848	100%



外国人への車いす貸出泊数とその割合

外国人	574	20%
日本人	2,282	80%
合計	2,856	100%



日本人の貸出平均泊数 3. 17 日

外国人の貸出平均泊数 4. 45 日

外国人へのベビーカー貸出台数とその割合

外国人	65	6%
日本人	1,062	94%
合計	1,127	100%

外国人へのベビーカー貸出泊数とその割合

外国人	136	4%
日本人	3,063	96%
合計	3,199	100%

3) しょうがい者・こうれい者観光案内所の拠点の拡大

★那覇バスターミナル しょうがい者・こうれい者観光案内所

新那覇バスターミナルのオープンに伴い、平成 30 年 10 月に開所した。複合施設の 2F 沖縄観光情報センター内にある。



★福岡空港しょうがい者・こうれい者観光案内所開設へ

開所は、令和元年 11 月を予定しており、福岡をはじめとした九州圏のバリアフリー観光のワンストップ窓口を目指す。

(開所概要)

開所時期：令和元年 11 月開所（予定）

場所：福岡空港国内線ターミナルビル 1F 到着口北すぐ横
 運営時間：10：00-18：00（年中無休）

体制：窓口スタッフ 1 名以上常駐

サービス内容：観光案内・相談、車いす/ベビーカーの貸出等

(設置場所)

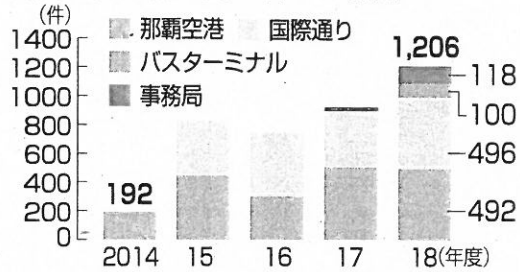


バリアフリー照会急増

外国人観光客、4年で6.3倍

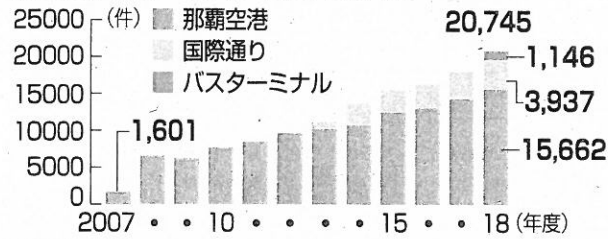
那覇空港と国際通り、那覇バスターミナルで、障がい者や高齢者などを対象にした観光案内所「沖縄バリアフリーツアーズセンター(BFTC)」を運営するNPO法人バリアフリーネットワーク会議(親川修代表)は20日まで、2018年度の運営実績報告書をまとめた。外国人観光客からの問い合わせ件数は1206件で、外国人客に関する統計を取り始めた14年度の192件から6・3倍に増えた。観光の好調さが続き外国人客が増加する中、体の不自由な外国人客の来沖も増加していることが見て取れる。

外国人観光客の問い合わせ件数



国内客も含めた18年度の全体の問い合わせ件数は、前年度比15・2%増の2万745件だった。9年連続で増加した。18年10月に那覇バスターミナルのBFT

沖縄バリアフリーセンターが運営する観光案内所への問い合わせ件数



Cを開所したことも、問い合わせが増加した要因となった。外国人客からの問い合わせ

せは国際通りが496件で最も多く、那覇空港の492件、NPO事務局の118件、那覇バスターミナルの100件と続く。17年度は那覇空港での問い合わせが最も多かったが、18年度は国際通りが上回った。

案内所で実施している車いすの貸し出し事業も、全848件のうち外国人客への貸し出しが129件(15・2%)を占め、外国人客への対応が増加している。車いすの貸し出し日数を分析すると、平均日数は国内客の3・17日に対し、外国人客は約1・4倍の4・45日になっている。

親川代表は「外国人客が

増える中、外国の障がい者や高齢者向けの対応は必要性を増している」と指摘する。

その上で「車いすの貸し出し日数は日本人客より外国人客の利用日数が長い。こうした層への対応を強化することで、観光消費額の増加にもつながる」と話した。また、18年度の月別の問い合わせ件数は10月が2289件で最も多く、3月の

2205件、2月の1887件と続く。同NPOは「県1ヶ月を避けて来県している様子がうかがえる」と分析している。

障がい者や高齢者は観光のピーク月を避けて来県している様子がうかがえる」と分析している。